

## 障がい者青年学級事業再構築の進捗について②

### 1. 進捗報告

障がい者青年学級事業は、知的障がい者の学習機会として1974年から約50年継続していますが、学級生の固定化・高齢化や担い手の不足により、事業継続が難しくなっています。そこで、事業を今後も継続的に実施するため、2023年度から「障がい者青年学級事業の再構築」に取り組んでいます。(別添資料1-2参照)

現在、「学習事業としての目的の整理」を行い、「新たな仕組み」で事業を運営していくにあたっての基礎となる事業実施要項の策定に向けて、準備を進めています。

自治体の事業は、軽微なものを除き、要綱(要項)、要領など、安定的に実施するための基準を定めるのが一般的ですが、現在の町田市障がい者青年学級事業はこうした基準を定めずに実施してきました。

障がい者青年学級事業は、東京都を中心に他自治体でも類似した事業が行われていますが、他自治体では、事業実施要項を策定しているところが一般的です。現在、これらの他市事例を参考にしながら、要項にどのような項目を載せていくのか、その内容も含めて策定に向け、検討を進めています。(別添資料1-3参照)

### 2. 「事業の現状と抱える問題」

前記「1. 進捗報告」のとおり、再構築に取り組んでいるところですが、検討を開始した2023年度と現在とで状況が異なり、対応の見直しが必要となる点が生じています。(別添資料1-2参照)

#### ① 「(ウ) ボランティア活動者の減少」

- ・担当者を増やす取組は様々実施しており、毎年一定程度の方を担当者として認定していますが、活動時間が長く頻度も高いことから仕事・学業・家業などとの両立が困難なため、そのなかの多くの方は毎回続けて出席することが難しいのが現状です。特に2024年度は例年と比べると新たに担当者として認定された方が1月末までにわずか2名に止まっています。(「4. 担当者及び学級生に関する集計データ<表1>」参照)
- ・毎回活動に出席できる担当者が減少傾向にあります。特に土曜学級では、例年と比べて多くの担当者が家庭の事情などで継続困難となり、担い手不足が一層深刻な状況となりました。2024年度は公民館学級から3名の担当者が土曜学級に移るなど体制を整えていますが、経験豊富な方が減少し、残された担当者による支援が現在も困難な状況になっています。(「4. 担当者及び学級生に関する集計データ<表2>」参照)

#### ② 「(イ) 学級活動中の安全が十分に確保できない場面の発生」

- ・毎回活動に出席できる担当者が減少傾向にあることに加え、活動日前後の準備や反省のための担当者会議に出席できる担当者がさらに減少しています。(「4. 担当者及び学級生に関する集計データ<表3>」参照)
- ・その結果、例えば一日の活動の段取りや役割分担、個々の学級生に対する支援など、事前の情報共有が不十分のため、学級生一人一人をうまく支援できないことで、当

日の活動が円滑に進まないことが多くなっています。

- このように担当者の体制が十分ではないことで目が行き届かず、市職員や担当者が気付かないうちに活動中に外へ出てしまうなど、事故等につながりかねない状況が生じています。

### ③ 「休館による活動会場の変更」

- 2023年2月の「町田市生涯学習センター運営見直し実行計画」策定時点で施設の改修工事による閉館は予定されていませんでしたが、担当者の減少に加え、10月から生涯学習センターが休館したことに伴い、公民館学級は町田第一中学校へ、土曜学級は町田市民フォーラムへそれぞれ活動会場を変更しています。慣れない場所での活動に切り替わったことも、これまでと同様に開催することが難しくなった一因となっています。

## 3. これまでの対応

前記「2.『事業の現状と抱える問題』」に対して、以下の対応を行っています。(別添資料1-2参照)

### ① 「(2) 安全性確保のための緊急対策 ①担当者の役割整理と負担軽減策の実施」

- 担当者が大きく減った土曜学級では、2024年度は休館前から学級自体は月に2回実施しますが、学級を2グループに分け、学級生の出席を月1回にすることで、担当者の支援の負担を軽減しつつ目が行き届くようにすることで、安全性を確保しました。なお、休館中は、事業に携わる市職員を臨時的に増員して配置するとともに他学級担当者の応援を得ながら再び1つにまとめ月1回の活動を続けています。
- 学級活動以外では、土曜学級が先行して、学級ニュースの送付手段(郵送)や学級生の出欠確認の連絡手段(電話)に電子メールを採り入れることにより、担当者の負担を軽減しました。

### ② 「(3) 安全性を確保し、公平性を担保できる仕組みの構築」

- 現在、学級活動後に学級生を見送る際、家族等の送迎を要する学級生の行方がわからなくなる事例が続けて起こっており、要送迎者の情報共有の強化や担当者の配置の工夫を行うなどの対応をとっています。

## 【2023年度再構築案の一部見直しについて】

2024年度に入り、担当者の減少やセンター改修工事に伴う休館による活動会場の変更により、各学級の特徴が顕著になりました。現在、優先的に取り組むとした安全性の確保のための緊急対策に注力しています。なかでも、土曜学級と公民館学級では事故等につながりかねないケースも増加しており、再構築案の一部見直しも視野に入れて、担当者とも情報を共有しながら検討を進めています。

「4. 担当者及び学級生に関する集計データ<表2>」では、担当者1人あたりの支援学級生数に学級間で差がありますが、特に土曜学級においては、もともと所属の担当者が少なく、他学級担当者の応援により活動が成り立っていたところに、これまで活動の中心となってきた所属の担当者の減少、さらには町田市民フォーラムという会場の特性など複数の要因が考えられ、こうしたケースの増大が一過性のものなのかも含め、原因を調査中です。

#### 4. 担当者及び学級生に関する集計データ

<表 1>新たに認定された担当者数

年度	2024年度 (2025年1月まで)	2023年度	2022年度
公民館(人)	2 (2)	4 (1)	5 (5)
土曜(人)	0	3 (0)	5 (2)
ひかり(人)	0	3 (1)	3 (1)

※ ( ) 内…現在までに概ね毎回[年に半分以上]出席している担当者数

<表 2>学級生・担当者の学級活動出席人数及び担当者1人あたりの支援学級生数

年度 回数・人数 学級	2024年度(2025年1月まで)			2023年度		
	1回あたり 出席学級生 (人)	1回あたり 出席担当者 (人)	担当者1人あたり 支援学級生数(人)	1回あたり 出席学級生 (人)	1回あたり 出席担当者 (人)	担当者1人あたり 支援学級生数(人)
公民館	40.0	14.6[計] 12.0[公] 2.6[他]	2.7	41.4	15.1[計] 14.2[公] 0.9[他]	2.7
土曜	【休館前】 20.8	12.6[計] 8.6[土] 4.0[他]	1.7	34.4	15.9[計] 10.2[土] 5.7[他]	2.2
	【休館中】 30.5	12.8[計] 9.3[土] 3.5[他]				
ひかり (介助事業者含)	29.7	10.0[計] 7.6[ひ] 1.4[他] 1.0[介]	3.0	32.6	11.3[計] 9.5[ひ] 0.9[他] 0.9[介]	2.9

※ [ ]内…担当者の内訳

([計]合計/ [公]公民館学級担当者/ [土]土曜学級担当者/ [ひ]ひかり学級担当者/  
[介]介助事業者含 / [他]他学級からの応援担当者

※ 2024年度から公民館学級の担当者3名が土曜学級に移っています。

※ 土曜学級については、休館前の9月まで2グループに分けて活動しました。10月からの休館中は、他学級担当者の応援を得ながら再び1つにまとまり活動を続けています。

<表 3>担当者会議(父母交流会含む)の回数及び担当者出席人数

年度 回数・人数 学級	2024年度(2025年1月まで)			2023年度		
	延回数 (回)	出席担当者 (人)	1回あたり 出席担当者(人)	延回数 (回)	出席担当者 (人)	1回あたり 出席担当者(人)
公民館	31	143	4.6	46	265	5.8
土曜	35	186	5.3	44	291	6.6
ひかり	34	156	4.6	46	278	6.0